

「ちゃんと生きる」

丹野 綾乃

「その子の分まで、ちゃんと生きなくちゃいけないね」

友人を津波で亡くしたことを母に告げた時に言われた言葉。

ちゃんと生きるって何だろう。どういう生き方を「ちゃんと」と言えるのだろうか。間違いない生き方なんてあるのだろうか。亡くなった彼女に恥じないような人生を、とは思うものの、私はそんな余裕や自信のある人間ではない。社会に役立つ人になればいいのだろうか。復興に力を注ぎばいいのだろうか。

震災後、彼女の声が聞きたくて何度も電話をした。職場は海沿いだったはずだ。お願い、出て。生きてるって言って笑って。生きていてほしい、でもだめかもしれない。葛藤の中で毎日名簿を見続けた。名前がありませんようにと思いつながら、彼女の名前を探した。

願いつけて三週間。犠牲者の名簿に彼女の名前を見つけた。生きていてほしいと願っていたはずなのに、見つかって少しだけ安心したのも事実。水の中にいたのか、がれきの下敷きになっていたのかわからないが、もうひとりじゃない。弔えてよかったと思わせる震災の恐ろしさが身に染みた。それ以上に、彼女の声や笑顔ばかりがよみがえる自分が悔しかった。もう、会えない。

考えても考えても答えが見つからないまま、時間だけは確実に過ぎていった。楽しい日も、気だるい日もあった。彼女が楽しみにしていたゴールデンウィークもあっという間に終わった。休みを合わせて絶対遊ぼうね、とずっと前から言っていたのに。果たせない約束ばかりが残る。話したいことがたくさんあったのに。聞きたいこともたくさんあったのに。私は何をしているのだろうか。彼女が楽しみにしていた未来に、私は生きていて、彼女はいない。無駄に過ごしたら彼女は何と言うだろう。「ちゃんと生きる」って何なのかまだわからないけど、わからないから生きていこうと思う。わかるまで生きてようと思う。いつか彼女に、胸を張って自分の人生を自慢できるように。

天国から見ていてください。震災で失ったものはあまりに多かつたけれど、生きる意味を見つけたよと報告できるその日まで。